

職員による自己評価

A 環境面

感染症予防の観点から事業所内、送迎車内、療育教材、おもちゃ等の消毒を徹底し、事業の環境整備も意識した。

B 児童への支援内容

個別療育、集団療育ともに保護者のニーズや、利用者の成長に合わせ内容を考え支援している。

C 関係機関との連携

CW、学校、併用している他事業所と、不定期ではあるが情報の共有をしている。
医療機関とは連携の実績はない。

D 保護者への説明責任・信頼関係

良好、円滑に行えている。

E 非常対応

非常時を想定した訓練を年に2回実施している。

保護者による評価

A 環境面

事業所について：オープン以来ずっときれいなまま維持されていてとても気持ちが良い。
職員の方も清潔感のある方ばかりで安心できる。

B 児童への支援内容

個別に療育教材を作成して個々の発達状態をみて補っていてとても満足している。
児童間でのトラブルがあっても適切な対応をしてくれていて安心している。

以前は土曜日は頻繁に外出をしてくれていたが、今年度はその回数が減ってしまっている。
また外出してほしい。

C 事業所からの情報発信

必要なことは発信されている。

D 非常対応

避難訓練を実施してくれている。

事業所内での分析

【共通点】

環境整備や療育環境が整っている。
療育内容(個別)に関して、ニーズをとらえられている。
保護者と事業所間の情報共有、信頼完成に関して良好である。

【相違点】

週末(土曜日)の内容について、以前のように外出をする機会を増やしてほしい。

分析・検討してみて…

事業所の強み

今年オープンしたばかりなので、療育室内や玩具や療育教材が新しいので、保護者の方へのイメージアップにつながりやすい。
個別療育・集団療育の両方のプログラムを毎日必ず行っているので発達に沿った支援をすることができる。

事業所の改善点

土曜日のプログラムについて、再検討し、保護者や利用者の希望に沿った内容に近づけられるようにする。

小学1年～高校3年までを同じ療育室内で療育しているため、人数や体格の差でケガや転倒のないように徹底して配慮する必要がある。

事業所の改善への取り組み

月1行っている職員のミーティングにてこの内容を共有し、よりよい療育を提供できるように検討したい。
保護者や利用者への面談を行い、ニーズの確認や療育の報告をこまめに行いたい。
利用人数が多い日や、高学年と低学年が同じ日に利用しているときは、利用者に危険がない様に配慮し、活動中に利用者にストレスを感じさせないような環境配慮につとめたい。

～自己評価を行っての事業所としての感想など～

療育の場として、現状を振り返り客観視することで日常では補えない課題点を改めて感じ、それについて職員間で共有、改善することができて、とても良い機会になったと思う。

事業所名 ハッピーキッズ 菊名教室

担当者 三浦 友幸